

第3回 湖西市ゼロカーボンシティ推進協議会 会議録（要旨）

開催日時	令和5年8月29日（火）14：00～16：30
開催場所	湖西市健康福祉センター「おぼと」
出席者	（委員）19名 （オブザーバー）5名 （政策参与）1名 （事務局）6名 （受注者）2名
内 容	
1 開会	事務局 司会あいさつ、参加状況の確認、資料確認
2 環境部長あいさつ	
3 会長あいさつ	
4 議題	<p>（1）地域の将来ビジョンや目標達成に向けた施策について（意見交換）</p> <p>佐原司：ペロブスカイトやドリーム燃料などの技術革新・研究が進み、開発された最新技術を導入しなければ、ゼロカーボンを達成するというのは難しいのではないかと。</p> <p>原 田：湖西市民にアピールする資料にしてはページ数が多すぎるのではないかと。今年の7月に省エネ診断を受け、バーナーやコンプレッサーの高効率な使用方法をご指摘いただいた。</p> <p>佐原克：製造業では機械が年々電動化になってきているが、年間ほんの数%の削減効果。今後は技術革新の成長が関わってくるのではないかと。昔は浜名湖一面にアマモがびっしり生えており、アマモが打ち上げられている状態だったが、現在は打ち上げられるほどのアマモはない状態。湖西市の高校として、アマモの保全活動を今後も続けていただきたい。</p> <p>川 上：庁舎でもLED化が進んでおらず、今年度にようやく共用部分について完全LED化を目指す取り組みを進めている状況。 ゼロカーボンの取組について、事業者は資金が必要になってくる。本協議会には金融機関も出席しているため、資金調達等の検討があればいいのではないかと。</p> <p>川 島：現状を把握する「見える化」と、何をいつまでに実行するかという時間軸の設定が大事。 カーボンニュートラルの推進について、企業・市民への食いつきがよくないため、「徹底的な省エネによりコスト削減に繋がり、企業の収益の改善に繋がるのがカーボンニュートラルに繋がる」というような身近な課題を出し、必要性を感じてもらう必要がある。</p> <p>光 原：2030年、2050年と目標を提案されているが、その年まで湖西市に住んでいるか、働いているのか先過ぎて当事者意識がなくなるため、PDCAサイクルを小さく回す必要があるのではないかと。 地球温暖化に対する理解の向上は重要だと感じている。啓発活動、リテラシーの向上は湖西市に住んでいる全員の共通認識の課題ではないのかと考えている。</p>

渥美博：資料の説明が長く、一気に目を通すのは難しいと感じた。そのため、理解を深めるための場を設けるといったことから始めていけばいいのではないかな。

渥美敏：どうやってアマモを増やすのかノウハウを蓄積している段階。漁業の方では、補助金等を頂いて新しい省エネ機器を導入している。また、新しいエンジンにするなど環境との共存を考えなければならない。

北谷：超長期的な計画であるため、細分化して3年スパンくらいで進んでいった方がいいのではないかな。高齢化が進む中で、市民の方にこういった形でゼロカーボン化についてお伝えするかが重要になってくる。組合としても、LEDに切り替えたほか、電気自動車を2台導入した。

榊原：よっぽどの雨でしか止まらない遠鉄電車が大雨の影響で止まり、タクシーも1台水没。地球温暖化の影響を感じた。

瀧本：入社した30年前と比べ、現在は相当技術革新が進んだ。同様に、2050年までに必ず更なる技術革新は起こると思う。2050年の目標を見据え、今何をするかということが重要。アマモは湖西市らしさがでていいものになると思う。熱の需要について、油の燃料材からCO2の少ないガスに転換をし、その後、カーボンクレジット・カーボンオフセットをするというアイデアもあるのではないかな。

丸山：地域特性を踏まえ、湖西市らしい施策を作成しており、素晴らしい。目標を達成するためには、個々の目標値・効果の検証を行い、1年1年の積み重ねをいかに注力して、2050年カーボンニュートラルに繋げていくべきかという点が重要。電力会社としてCM等での宣伝活動を行っているため、色々お声がけしていただきたい。

耳塚：金融機関に求められるのは金融の面とワーキングの面ではないかと考えられる。目標達成に向けては市民をどうやって巻き込んで取り組んでいけるかが重要になってくる。大人が説明するよりも高校生の皆様が真摯に取り組み、広めていくべきではないかな。また、他の団体を巻き込んで取り組むことも大事でないかな。8月3日に湖西市と各金融機関で連携協定を締結したところ。カーボンニュートラルに寄与しながら、事業者の持続可能な活動の実現のため、様々な企業、家庭を日々回っており、啓発活動の支援もご協力させて頂くとともに、目標達成のための支援をお願いしたい。

遠藤：スーツを着ている大人が発信するよりも次の世代の方から発信した方が一般の方に響いて広がっていくと感じる。今回の計画をかみ砕いた事業者、生活者に向けた発信を作ることがすごくいいのではないかな。先行して、省エネ・再エネ設備を導入した事業者に対して次の一手を促す

ようなインセンティブのような枠組が必要ではないか。健康アプリを検討し持続的に取り組みを促すような施策も検討していただきたい。
ブルーカーボンのアマモや、森林を活用したオフセットでの施策のような、湖西らしさにこだわって取り組めるようなものがあればいいのではないか。

板 倉：ごみを処理するには相当なエネルギーを使うため、ゴミを減らすと CO2 削減に繋がる。それに加え、エネルギーそのものを減らすことをやっていけば、ゼロカーボンに貢献できるのではないか。

大 倉：様々なライフスタイルがある中で、それぞれの施策があった方が取り組みやすいのではないか。

市民は 1 日ですごい量の情報を得ている中で、月 1 回の発信で行動変容が起こるのか。同じ情報を違う切り口で伝え続けることが必要ではないか。知る機会の提供として、年 1 回でも環境イベントを開催するのもいいのではないか。

夏休みの宿題として「環境」についての宿題を出し、親子で取り組むことにより家庭に浸透していくのではないか。

服 部：目標に向かっての 5 年 10 年の流れはだいぶ変わってくると思うため、大きな計画の見直しについては 5 年ではなく 3 年くらいでもいいのではないか。今後の評価をしていく際に、効果の見え方についても長期的な効果、短期的な効果があることを考えていくといいなと感じた。

高校生が大人に向けてでなく、小学生や中学生といった次世代に向けた発信、教育は大事だと思う。

湖西市は海と山、つまりブルーカーボンの吸収と森林の吸収の両方の資源を持っているため、もう少し思い切った吸収源対策があってもいいのではないか。

桐 生：具体的な取組の中に、環境省の支援制度を活用していただくような項目があるが、ぜひ支援させていただきたい。

平 井：湖西市の現状の温室効果ガス排出量は、製造業由来が圧倒的に多い中、製造業の皆様にも、まずは削減に向けて努力してもらう必要があり、そのためにはプラットフォームの役割が大事になってくる。商工会、JA や漁業等の業界団体と行政の連携のあり方、大手企業が製造業として、産業界としてどうリーダーシップをとっていくのかが今後重要になってくるのではないか。

省エネ診断や国や県の補助制度をどう活用していくのか。また、湖西市として ESG 金融のあり方、ESG 投資のあり方についても今後施策の中では重要になってくるのではないか。

平 松：ウォッシュにならないために、短期的な効果検証、中長期的な効果検証をすることを目的にデータを集めて強い説明力を持つ必要がある。製造業においてカーボンニュートラルを達成するのは難しいが、達成することでマーケットシェアを伸ばし、次の成長に繋げるということを共通認識としたうえで取り組んでほしい。

湖西市民、特に若い人たちが中心にデータの収集や企画、分析を進めて行

く事が大事で、今後社会に出ていくうえで非常に大きな力になる。

(2) (仮称)湖西市地球温暖化対策実行計画(素案)について
配布資料「湖西市ゼロカーボンシティ推進協議会 第1回協議会資料」について事務局より説明を実施。

遠 藤：関係自治体との連携による「地域循環共生圏」の構築、あとは「脱炭素先行地域」「重点対策加速化事業」の活用について、具体的にどのようなことを検討しているのかご教示いただきたい。

村 山：具体的な施策は現在ないが、今後、エリアを限定するところからはじめ、こういった取り組みができるかについて検討をする予定。

佐原司：ドリーム燃料やペロブスカイトといった最新技術についての情報を精査していただいて、施策に落とし込んでいただきたい。

滝 川：こういった形で盛り込むか検討していただきたい。

瀧 本：当社でもEV車の導入を計画したが、EV車の電気が何由来なのかを聞かれるとなんとも言えない。評価の仕方を検討された方がいいのではないか。

滝 川：冒頭頂いた意見をできるだけ反映できるよう、分かりやすい資料を作成していただきたい。

村 山：本協議会の議事録については後日共有する。

近 藤：次回協議会は10月中旬を予定。また、素案の修正版については後日送付予定。

7 閉 会

(別紙) 湖西市ゼロカーボンシティ推進協議会 委員名簿

業種	所属等	職名	氏名	出欠
教育・学術機関	豊橋技術科学大学	副学長 電気・電子情報工学系 教授	滝川 浩史	○
金融	静岡銀行	湖西支店・新居支店長	遠藤 威	○
	遠州信用金庫	湖西支店長	耳塚 和也	○
電力	中部電力株式会社	事業創造本部部長（事業推進担当）	丸山 忠宏	○
ガス	サーラエナジー株式会社	カーボンニュートラル推進部長	瀧本 修	○
公共交通機関 (鉄道・バス・タクシー)	遠鉄タクシー株式会社	常務取締役運行営業部長	榊原 正之	○
農業・ 漁業協同組合	とぴあ浜松農業協同組合	湖西地区支店地区統括部長	北谷 英久	○
	浜名漁業協同組合	代表理事組合長	渥美 敏	○
商工会	湖西市商工会	事務局長代理	二橋 和久	×
	新居町商工会	事務局長	渥美 博之	○
市内事業者 (製造業・物流業)	プライムアースE Vエナジー株式会社	経営戦略室 主査 兼 SDGs 企画推進グループ長	光原 好人	○
	有限会社浜名樹研	代表取締役社長	佐原 克哉	○
	株式会社新光製作所	代表取締役社長	原田 高久	○
	株式会社笠子流通	代表取締役社長	佐原 司郎	○
地域住民	市民代表	湖西市自治会連合会会長	板倉 福男	○
	消費者代表	特定非営利活動法人 ママライフバランス 副理事	大倉 昌子	○
	湖西高校	新3年生 新2年生	木本 和輝 塩澤 陽斗	○
	新居高校	新2年生 新2年生	ルガ クラレンス 石原 碧	○
オブザーバー				
静岡県	企業脱炭素化支援センター	イノベーション推進部	川島 一貴	○
	地球温暖化防止活動推進センター	ゼネラルマネージャー	服部 乃利子	○
環境省	関東地方環境事務所	地域脱炭素創生室長	増田 大美	○
財務省	東海財務局静岡財務事務所	総務課長	川上 正人	○
湖西市環境審議会	湖西市環境審議会 静岡県環境資源協会	湖西市環境審議会会長 静岡県環境資源協会 専務理事	平井 一之	○
湖西市政策参与				
	(株)ヴォンエルフ	代表取締役	平松 宏城	○